

事務事業名	教室開催関連事業	事業期間	～	年度	係内番号	02
担当部署	生涯学習部	スポーツ健康課	スポーツ健康係	連絡先	72-8399	

政策 番号	02	基本計画①	01	教育大綱	0302	スポーツを通じた健康づくり	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高								
		基本計画②	02	生涯学習推進指針	0101	市民の学びを支える										
		実行計画	05	スポーツ推進計画	0000	複数の柱にまたがる事業										
		項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称										
予 算 事 業 名	親子で運動推進事業費、健康増進・体力づくり推進事業費、自主活動応援事業費							会計コード	01	款	10	項	06	目	01	事業
事務事業の概要	すべての市民が豊かなスポーツライフで生涯を楽しく健康に生きることができるよう、年齢・体力・技術・適性・興味・目的に応じて、安全でスポーツに親しむことができるような教室を開催する。幼児期は幼児トリム教室、小学生期は小学生エンジョイスポーツ教室、中学生期はジュニアスポーツ教室、各地域ではコミュニティスポーツ教室、全世代向けの生涯スポーツ健康講座、障害をもつ親子にはひよこ教室を開催・支援し、スポーツをする機会を充実させる。															
現状と背景	社会環境の変化により、子どもの体を動かす機会が減少や、運動をする子と、しない子の二極化が進んでいる。また、成人の週1回以上のスポーツ実施率は30.2%（2016年度市民アンケート）で、全国42.5%（2016年度スポーツ庁調査）、県45.1%（2015年度長野県調査）となっている。一方で、スポーツを必要だと思っている割合は79.3%と高いが、スポーツができていない状況となっている。															
目的	受益者	運動習慣がない、運動が嫌いな園児・児童、障害をもつ園児・児童とその保護者、生涯スポーツに興味がある者、競技志向の中学生														
	対象	同上														
手段・方法	意	参加者がスポーツに親しみ、スポーツ活動が習慣化されることで、豊かなスポーツライフで生涯を楽しく健康に生きることができるようになる。また、スポーツ実施率の向上につながる。														
	図	<ul style="list-style-type: none"> 園児対象の幼児トリム教室では、運動遊びを通して基本的運動機能を身につけ、身体を動かすことの楽しさを、小学生対象の小学生エンジョイスポーツでは、複数の種目が体験することで、自分に合ったスポーツを見つけることや、スポーツを楽しむことを知る機会とする。 障害児対象のひよこ教室では、身体訓練及び社会体験により今後の生活に必要なとなる体験の機会とする。 コミュニティスポーツ教室では、地区単位で年齢・体力・技術・適性・興味・目的に応じた教室を開催する。 競技志向の中学生向けに、地域の指導者が計画したジュニアスポーツ教室の開催・支援を行う。 														
評価 指標 の 作成	活動 指標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など							最終目標値				
		1	子どもの体力向上、体を動かす機会の提供	教室数	回	幼児トリム・小学生エンジョイスポーツ・ひよこ教室開催数							10			
		2	運動する機会やきっかけの提供	講座等開催数	回	生涯スポーツ健康講座・コミュニティスポーツ教室実施数							266			
	成果 指標	成果・効果は何？		指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など							最終目標値			
1	幼児・児童の運動習慣化		教室への参加率	%	トリム・エンジョイスポーツ教室 参加者数/対象者数（割合）							90				
2	スポーツに親しみ、健康づくりができる		講座等参加者数	人	生涯スポーツ健康講座・コミュニティスポーツ教室参加者数							4,700				

実 施 状 況 （ D O ）	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	事業費等(a)	円	2,127,001	2,382,000				
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円	605,000	655,000				
	一般財源	円	1,522,001	1,727,000				
	活動 指標	教室数	目標	回	10	10		
			実績	回	7			
達成率			%	70.00	-	-	-	
講座等開催数		目標	回	266	266			
		実績	回	255				
		達成率	%	95.86	-	-	-	
成果 指標	教室への参加率	目標	%	90	90			
		実績	%	97				
		達成率	%	107.78	-	-	-	
	講座等参加者数	目標	人	4,700	4,700			
		実績	人	3,264				
		達成率	%	69.45	-	-	-	
備 考								

事務事業名	教室開催関連事業		事業期間	~	年度	係内番号	02
担当部署	生涯学習部	スポーツ健康課	スポーツ健康係		連絡先	72-8399	

事業 評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事業 後 評価 価値 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	成果 要因分析	幼児及び小学生運動教室は、定員以上の申込みがあり運動遊びの場の提供が行われているが、講師の確保が難しく教室数が低下した。講座等参加者は、学校体育館が学校行事等で使用できなかったこと及び屋外スポーツの天候不順等により参加者が減少した。				
	総合評価	スポーツリーダーは、コミュニティスポーツ教室により各地区内の連携や、健康増進及び運動機会の提供に寄与している。 幼児・小学生運動教室は、遊ぶ楽しさ・体を動かすことへの不安感払拭をすることができた。				
	課題	スポーツリーダーの登録者減少が慢性的な課題で、H31年には6名の新規加入者を迎えたが、さらに新規加入者を増やしたい。ジュニアスポーツは、部活動の体制の改革時期に来ているので、要項の改訂や助成内容の見直しが必要となる。				
改革・改善の方向性(ACIT)の策	成果 コスト 方向性 内容 策	現状維持 現状維持 市民の運動機会提供のため、講座を開催しているが定員に達しない講座が見受けられるため、広報活動を幅広く行う。 受講児童の安全確保、子どもの運動遊び離れや体の動かし方などに特化した講師及び補助員の新規発掘が必要。 コミュニティスポーツ教室は、新たなリーダー発掘及び各種講座への参加者の拡充を図り老若男女が参加できる運動講座などの開講を目指す。 ジュニア期の部活動に対する方向性を定め、内容の見直しを行う。				
作成担当者	矢島 友喜					
最終評価責任者	中村 浩明					
最終評価年月日	令和元年5月16日					

事務事業名	スポーツ団体等支援事業	事業期間	～	年度	係内番号	03
担当部署	生涯学習部	スポーツ健康課	スポーツ健康係	連絡先	72-8399	

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中					
			基本計画①	01	教育大綱	0302	スポーツを通じた健康づくり							
			基本計画②	02	生涯学習推進指針	0101	市民の学びを支える							
			実行計画	05	スポーツ推進計画	0000	複数の柱にまたがる事業							
予 算 事 業 名	スポーツ団体育成費、スポーツ大会開催関連費					会計コード	01	款	10	項	06	目	01	事業
事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの日常化や競技力の向上など生涯スポーツの推進を図るために、市内スポーツ活動の中心団体である特定非営利活動法人茅野市体育協会の活動を支援する。 ・スポーツを通して青少年健全育成を進めるため、独自財源を持たないスポーツ少年団の活動を支援する。 ・地区大会から予選を勝ち抜いた選手又はチームが、全国大会や世界大会に出場する際に激励金を交付する。 													
現状と背景 (どうして)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成9年12月に行政改革、情報公開、自主独立的運営、地位の向上などを図るため、茅野市体育連盟（H12.4月体育協会へ改称）事務局が市から独立。競技力向上や、地域に根ざしたスポーツ活動の推進及び発展を目指す体育協会への支援を、また、昭和63年7月に青少年の健やかな成長を図り、子どもと子どもを取り巻く地域や人々のスポーツ活動を活発にするために設置されたスポーツ少年団の活動を支援する。 ・全国大会や国際大会で活躍する選手・チームの支援する。 													
目的	受益者 (誰のために)	競技スポーツを行っている市民、体育協会に加盟協会の会員となっている市民、これからスポーツを始める市民、全国大会・国体等の参加選手、チーム。												
	対象 (直接働きかける)	(特) 茅野市体育協会、茅野市スポーツ少年団、全国大会や国際大会出場する選手・チーム												
手段・方法 (どうやって)	意 図 (どんな状態にしたいか)	生涯スポーツの推進を図り、市民1スポーツを定着させる。小学生期からスポーツに親しむことを通じて、体を動かすことを習慣化するようにする。また、全国大会等への出場者を支援する。												
		茅野市体育協会、スポーツ少年団ともに活動を支援するための補助金を交付することで、それぞれ事業計画に基づき活動を実施する。市総体等の各種大会開催、競技力向上、指導者の育成、初心者教室開催などを通じて、スポーツ機会の充実や体制の強化、ライフステージに応じたスポーツ活動の推進を図る。また、予選会を経て全国大会に出場した選手・チームに激励金を交付することで、大会参加への支援を行う。												
評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値								
		1	茅野市体育協会の活動支援	体協実施事業数	件	市総体、スポーツ祭、表彰、教室、競技力向上、普及啓発、交流促進、委員会	8							
		2	スポーツ少年団の活動支援	スポ少実施事業数	件	結団式、こども祭り、修了式、講習会、研究会、交流会、委員会、練習	8							
	3	全国大会等出場者への支援	激励金交付件数	件	年間交付件数	80								
	変更履歴													
	成果指標	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値								
		1	大会、イベント参加者数	大会、イベント参加者数	人	協会主催事業+スポ少事業参加者数	40,000							
		2	体育協会、少年団の会員数	体育協会、少年団会員数	人	体育協会会員数+スポーツ少年団加入者数	3,831							
	変更履歴													

実 施 状 況 (D O 考)	項 目	単 位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	事業費等(a)	円	4,389,000	4,464,000				
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
	一般財源	円	4,389,000	4,464,000				
	活動指標	体協実施事業数	目標	件	8	8		
			実績	件	8			
		達成率	%	100.00	-	-	-	
		スポ少実施事業数	目標	件	8	8		
			実績	件	8			
		達成率	%	100.00	-	-	-	
	激励金交付件数	目標	件	80	80			
実績		件	84					
達成率	%	105.00	-	-	-			
成果指標	大会、イベント参加者数	目標	人	40,000	40,000			
		実績	人	43,148				
	達成率	%	107.87	-	-	-		
	体育協会、少年団会員数	目標	人	3,831	3,831			
実績		人	3,736					
達成率	%	97.52	-	-	-			
備考	スポーツ団体育成費は全額、スポーツ大会開催関連費は報償費672千円の内、賞賜金565千円のみ計上（賞賜金以外は大会開催関連費へ計上）							

事務事業名	スポーツ団体等支援事業	事業期間	~	年度	係内番号	03
担当部署	生涯学習部	スポーツ健康課	スポーツ健康係	連絡先	72-8399	

事業 評価 価値	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事業 後 評価 価値 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	～成果変異動指標要因分析	大会・イベント参加者数は、大会数の増加や天候に恵まれたこと等により増加したが、協会員数は体育協会加盟協会の脱退や、会員の高齢化により減少となった。激励金は、世界大会参加選手が複数名出たことにより増となった。				
	～総合評価	大会・イベント参加者数は、大会数の増加や天候に恵まれたこと等により増加した。激励金は、新たな競技種目から世界大会参加選手が出るなど、今までとは異なる動きが出てきた。				
	～課題	協会員数が体育協会加盟協会の脱退や、会員の高齢化が一段と進み、会員数の減少に歯止めがかからない状況となっている。体育協会からスポーツ協会への名称変更に伴う費用が発生する。				
改革・改善の方向性(ACIT)	翌年度方向性	成果 コスト	現状維持 縮小			
改革・改善の方向性の内容	軽スポーツや一人で行えるスポーツをする人口が増える一方で、競技スポーツ離れの傾向がみられる。体育協会・スポーツ少年団の活動支援を継続し、大会や教室の開催を通じて底辺からの拡大を行い、参加者や会員の現状維持化を図る。また、教室、イベントなど内容を精査し、多くの人が参加しやすいものにしていく。					

作成担当者	上条直之				
最終評価責任者	中村浩明				
最終評価年月日	令和元年5月16日				

事務事業名	大会開催関連事業	事業期間	～	年度	係内番号	01
担当部署	生涯学習部	スポーツ健康課	スポーツ健康係	連絡先	72-8399	

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中
			基本計画①	01	教育大綱	0302	スポーツを通じた健康づくり		
			基本計画②	02	生涯学習推進指針	0101	市民の学びを支える		
			実行計画	05	スポーツ推進計画	0000	複数の柱にまたがる事業		

予算事業名	市民1スポーツ推進事業費・スポーツ大会開催関連費	会計コード	01	款	10	項	06	目	01	事業
-------	--------------------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----

事務事業の概要
 (簡潔にわかりやすく)
 市が主催する大会の他、県内外から選手役員が参加する大規模大会やNPO法人茅野市体育協会を構成する競技団体が誘致した大会（持ち回り含む）を開催・支援する。大会を開催することで、市民一人ひとりが豊かなスポーツライフで生涯を楽しく健康に生きる生活の実現、また、スポーツによる世代間の交流、ジュニア選手の発掘などを図る。

現状と背景
 (どうして)
 スポーツ競技大会は、楽しみ志向の人から勝利志向の人まで、年齢・興味・関心・体力・技術等のレベルに応じた大会を開催することで、初心者から高齢者までライフステージに応じたスポーツの場として、また、全国大会や国際大会で活躍できる選手の発掘の場としている。大規模大会では、地域交流・世代間交流だけでなく、ボランティアの定着や地域振興を図っている。

目的
 対象者 (誰のために)
 スポーツをしている市内在住・在勤・在学者、大規模大会では市内外の参加者、これからスポーツを始めようとしている者
 対象 (直接働きかける)
 大会参加者、大会運営団体

意図
 (どんな状態にしたいか)
 各競技スポーツへの意識や生涯スポーツへの関心を高め、スポーツによる地域の一体感や活性化、市民1スポーツの推進、及び各大会への参加者の増加、競技のレベルアップを図る。

手段・方法
 (どうやって)
 市主催大会（茅野市総合体育大会・諏訪地方ジュニア陸上競技大会・長野県ジュニアスピードスケート競技会中南信大会・茅野市ふらばー大会等）や、事務局となっている八ヶ岳縄文の里マラソン大会などの大会を開催・参加する。大会の情報は、市広報紙やホームページなどに掲載して周知を行う。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	各種大会の開催	開催大会数	大会	年間大会数（市総体は1として計上）
	2	競技種目の多様化	市総体開催種目数	種目	市総体の開催種目数	30
	3					
	変更履歴					
成果指標	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	参加人数の増加	参加人数	人	年間大会参加人数
	2					
	変更履歴					

実施状況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			事業費等(a)	円	6,652,274	8,042,000	
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円	1,920,000	3,080,000			
	一般財源	円	4,732,274	4,962,000			
活動指標	開催大会数	目標	大会	9	9		
		実績	大会	9			
	達成率	%	100.00	-	-	-	
	市総体開催種目数	目標	種目	30	30		
		実績	種目	30			
	達成率	%	100.00	-	-	-	
-	目標	-					
	実績	-					
達成率	%	-	-	-	-		
成果指標	参加人数	目標	人	9,000	9,000		
		実績	人	8,632			
	達成率	%	95.91	-	-	-	
	-	目標	-				
実績		-					
達成率	%	-	-	-	-		
備考	市民1スポーツ推進事業費は全額、スポーツ大会開催関連費は報償費の賞賜金565千円を除く金額（賞賜金はスポーツ団体等支援事業へ計上）						

事務事業名	大会開催関連事業		事業期間	~	年度	係内番号	01
担当部署	生涯学習部	スポーツ健康課	スポーツ健康係			連絡先	72-8399

事業 評価 価値	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事業 後 評価 価値 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	成果 要因 分析	市民スポーツ推進のため実施している、市総体や市民スポーツ祭の参加者が高齢化してきていること等により参加者が若干減少傾向になり目標値より減少した。				
	総合評価	縄文マラソンは、県内外から1282名の参加をいただき第2回大会以来の参加者数で盛んに大会を終了した。また、ゲストランナーによるランキング講習会は、大好評だった。 働き世代の参加がまだ十分とは言えない状況にある。今後は、働き世代の方が参加しやすい状況を作りたい。心肺停止者が出たことによりマラソン参加定員を200名削減したため、参加料収入が減少するので広告料収入等を増やすことが必要。				
	改革・改善の方向性(ACIT)の内容及び策	市民スポーツの推進及び競技スポーツによる各スポーツの競技力向上のため大会の開催回数を減らさないことが重要。また、市総体やふらば～る大会は、世代間を超えた交流や地域間交流を行える場として市民に提供する必要がある。 マラソン大会の協賛金は、既に協賛していただいている企業には増額を、新たな協賛社探しは関係者を通じて増やすことを検討する。				

作成担当者	矢島 友喜				
最終評価責任者	中村 浩明				
最終評価年月日	令和元年5月16日				